

令和4年9月15日

立田幼稚園

立田幼稚園 令和3年度自己評価の報告

1. はじめに

令和3年度は『幼稚園生活の中で一人ひとりが好きなあそび・すきなことを見つける』を重点的に取り組むテーマとして項目を設定して評価した。

幼稚園時代は好きなことに没頭して遊ぶ中で子どもたちは様々なことを学んでいくが、今は何をすることも「新型コロナウイルス対策」によって制限される中での生活のため、遊びこむ経験ができていない子ども達がいるかもしれない。一人ひとりの子ども達が好きなことを楽しむことができているか、様子をしっかりと確認しながら保育を進めていくよう、この重点項目を設定した。

また、『保育に活かせるわたしの好きなこと・強み』という自由記述の項目を設けた。コロナウイルスに翻弄されて苦しいことが多く、保育の楽しさを忘れてはいないか。時には教師自身が好きなことを保育に取り入れ、子どもと一緒に楽しんでほしい。

これらの他、立田幼稚園の教師として必要な基本的事項についても点検した。

2. 自己評価結果のまとめ

令和3年度の自己評価結果について、学校法人立田学年の理事会（令和4年5月27日）実施にて報告を行った。その内容を以下のシートにまとめた。

評価分野	自己分析
1. 教育の在り方・ 教育計画	<ul style="list-style-type: none">・2学期と3学期に長期の「登園自粛」要請が出されたことで、保育計画を立てることが非常に難しく何度も変更が生じた。主要行事は出来る限り保護者来園の上実施できるよう日程を何度も組み直したため、クラス担任の負担は相当に大きくなってしまったが、子ども達・保護者は実施できたことをとても喜び、行事を通して子ども達が大きく成長することができた。・この2年間新型コロナウイルス対策で出来なかったことも多かった。子ども達の育ちのために必要なことは、コロナ時代出来得る形に変更して再開していきたい。・子ども達の興味・関心、時には教師の得意も保育に取り込んで、子どもも教師も心から楽しめる保育計画を立案していきたい。

<p>2. 保育の実践と 指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期後半は春休み開始まで「登園自粛」要請が出されたままであった。 園関係者の状況が落ち着いたところで「自由登園」に切り替え、子ども達を受け入れた。限られた日数の中でも担任教師は「今できること・今経験させたいこと」を出来る限り保育に盛りこみ、卒園・修了まで子ども達が成長し続けることができた。 ・一人ひとりの幼児の理解をより深めるために、会議の場以外でも自由に意見交換ができる雰囲気づくり、若手教師も気軽に話ができる風通しの良い関係づくりを心がける。 ・感染拡大防止のため、集合型の研修は中止になることも多かったが、代わりにオンライン研修を利用することで、これまでなかなか研修に出かけることのなかった職員も学びを深めたり新しいことを吸収したりする機会を確保できるようになったのは良かった。学びを保育実践に活かし、保育の質を向上させることが大切である。
<p>3. 地域・家庭との 連携と支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登園自粛期間中のみならず、保護者が来園する機会が少なく、対面でのコミュニケーションが減少している。電話やおたよりで園の様子が家庭に伝わるように努めてきた。動画配信サービスを活用して日々の保育の様子や保護者が参観できない行事を配信してきたが、編集等に時間がかかってしまうため、タイムリーに配信できないのが課題である。 ・この2年間は園外活動を思うように実施できなかった。令和4年度からは、少しずつ活動範囲を拡げていき、地域の自然や資源を教育活動に活かしていきたい。 ・地域の方との人的交流は、引き続きの課題である。交流を深め、互いに協力し合える関係づくりをしたいが、手掛かりを掴めないでいる。
<p>4. 安全・衛生管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々新型コロナウイルス対策に努めてきたが、効果のあることを必要なときに必要なだけ実施することとし、過剰な対策や無用な対策に追われることの無いように気を付けてきた。また、繰り返し保護者への情報発信をしたことで、園の対応に保護者の理解と協力を得られた。これらが功を奏し、令和3年度までは園内での感染者は出なかった。 ・安全面については、一人ひとりの教師が担当のクラスだけではなく全ての子ども様子を観るよう意識している。目の前の子ども達と関わりながらも全体を見通す眼を常にもつよう教師に求めている。

<p>5. 人事管理・労務 管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容及び発達支援の質の向上を図るため、教職に関する人材が多数を占めている。 ・子ども子育て支援新制度の処遇改善加算Ⅰを活用して賃金改善を行っている。更に、令和3年度からは教師のキャリアに応じた処遇改善Ⅱ加算を取得・配分しており、教職員のやり甲斐につながっている。現状に甘えることなく、常に向上心を持って職務に取り組むよう自覚を促している。 ・個人の希望をヒアリングし、雇用形態や人員配置を考慮している。更には時代にあった働き方の見直しを進めて行く必要がある。
<p>6. 財務管理と法人 管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定教育・保育施設の確認を受け、新制度の中で市町村の財政支援を受けている。更に幼児教育・保育の無償化の対象施設にもなり、収入の大半は公的資金となった。 ・園児数がそのまま収入に反映されるが、幼児教育・保育の無償化は幼稚園児（1号認定児）の減少につながっており、園児の確保が収入面における喫緊の課題である。併せて費用面の対策についても検討し、財務状況の改善を図りたい。